

マスタ教育財団は 1988 年に創立された財団法人です。

## 財団の概要

創始者柘田政治氏は、教育者であった母上の、中国の教育に対する夢と情熱を受け継ぎ、中国の留学生への支援を 1885 年より日中友好協会を通じて行っていました。1988 年に創始者柘田氏が基本財産を出捐し、中心となって柘田教育財団が設立されました。その目的は、教育・文化の分野にて、神奈川県民と諸外国の人たちとの相互理解の促進を図るとともに、県内で行われる教育・文化活動への支援を通じ国際交流及び地域の教育・文化の振興に寄与することにあります。行われてきた主な活動は以下の三点です。

- ① 神奈川県県内に居住し大学に在学する留学生又は同県内の大学に在学する留学生に対する修学の援助
- ② 教育・文化活動を行う団体等に対する助成その他の支援
- ③ 教育・文化の分野における国際交流に関する調査研究

## 主な活動成果

### ① 海外からの留学生に対する奨学金の給付

1985 年以來、支援した留学生は 13 か国、100 名を超えます。その出身国は中国、韓国、台湾、マレーシア、タイ、スリランカ、ミャンマー、インドネシア、ベトナム、オーストラリア、カナダ、アメリカ、スイスです。2001 年には、文部科学大臣より「長年に亘り、外国人留学生の受入れのために尽力され、多大な功績を挙げられたことに対し、留学生受入れ制度百年を記念し、その功を讃える」との理由で、表彰を受けました。

### ② 日本から海外に留学する日本人学生に対する奨学金給付

2006 年より、慶應義塾大学学生を対象に、アジアでのフィールドワークへの支援事業も行ってきました。その一期生の研究成果が高く評価され、日本学術振興会が天皇陛下からの御下賜金によって行っている事業—育志賞を受賞するに至りました。

### ③ 教育・文化活動を行う団体等に対する助成その他の支援

日中両国の相互理解と信頼を促進するため、1995 年に「柘田教育奨学基金」を上海の華東師範大學に設立し、6 年間にわたって優秀な大学院生 60 名を支援するとともに、国際交流に寄与しました。また、2004 年には米国ペッパーダイン大学に「Seiji Masuda Endowed Scholarship in Public Policy International Students」を設立し、これまでに海外からの留学生 20 名以上に奨学金を授与しました。

#### ④ 国際交流に関する調査研究

##### (1) 日本型システム研究（第1期）

社会、政治、経済、文化などの各分野に関し、日本型システムが国際化の中でどのような比較文明的な性質を持ち、どの方向に向かって進展していくのかについて検討・研究しました。この研究は1998年度より約3年間にわたって濱口恵俊氏を中心に行われ、その研究成果は1992年に『日本型システム—人類文明の一つの型—』として日本語ならびに英語で上梓されました。

##### (2) 日本型システム研究（第2期）

1997年より3年間にわたり研究。これは公文俊平氏を中心に分析の対象を日本経済・経営システムに絞り、欧米文化のみならずイスラーム世界の角度から研究したものです。

##### (3) 知の研究

2001年より研究。「21世紀『知的文明』の構築に向けて」をテーマに、「世界・自然のあり方」と「人間の生き方・行為のあり方」との乖離は、一方では近代科学の発展とそれによる生活の利便性をもたらしたが、他方では、今日の文明の危機をもたらしている、という認識のもとに研究しました。これは鈴木良次氏を中心とした研究で、2002年に研究成果が発行されました。